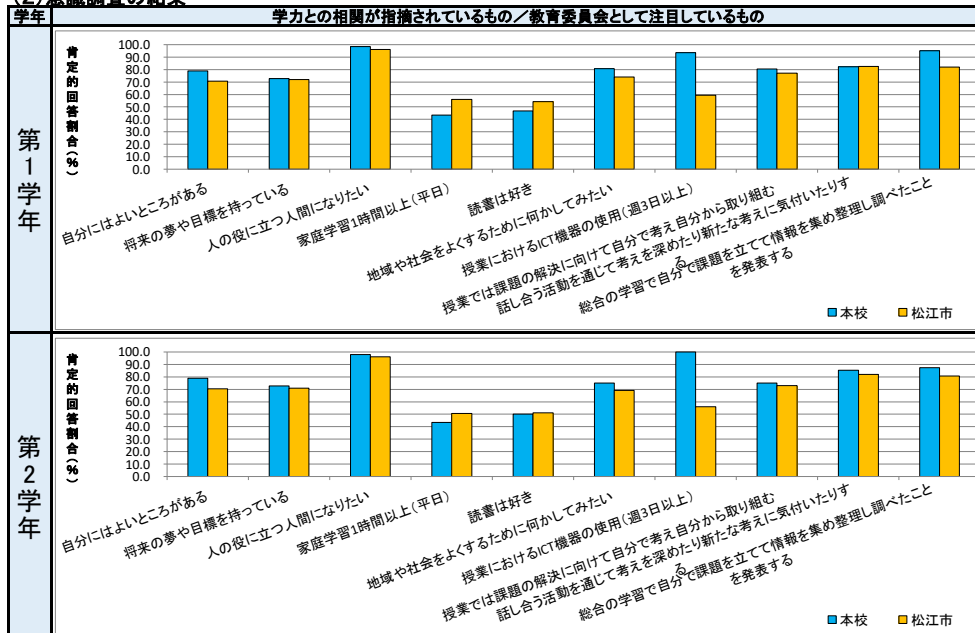


(1)教科調査の結果

学年	教科	分析(成果○/課題●)	改善策(●)
第1学年	国語	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○読み手からの助言を踏まえ、自分の文章の良い点や改善点を見いだして書くことにおいて、市町村区及び推定全国値の正答率を上回っている。 ○文法や語句に関する事項において、文節についての知識理解が市町村区及び推定全国値の正答率を大きく上回っており、定期的な語句や文法の定期テストや自学ノートの取組の成果が表れている。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●特に「読む」分野全般において、市町村区及び推定全国値を軒並み下回っている。また、「ことわざ」のような、普段の生活の中で身に付く語彙力が低いことがうかがえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こつこつと真面目に、かつ継続的に国語の家庭学習に取り組める生徒が増えつつあるので、そこを生かし、家庭学習の方法や分野などについて、より細かく具体的に指導を行い、家庭学習の成果が目に見えるよう、小テストやゲームなど、多様な方法で確認できるようにする。 ・読書啓発活動を行い、より粘り強く文章を読む機会が増えるよう働きかける。
	数学	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○絶対値・表から平均点を求める・累乗の含む正負の数の乗法については、市区町村および推定全国値の正答率を上回っている。 ○条件に合った数の範囲を求めたり、分配法則を利用した計算については、市区町村の正答率を上回っている。 ○既習事項の小テストを継続して行っている成果が表れている。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●分数・かっこのついた計算・グラフの座標・作図が表す意味・正負の数の活用については、市区町村および推定全国値の正答率と比較しても、正答率が非常に低い。特に、分数や基本的な計算力、コンパスや三角定規、分度器等の道具の扱い方については、普段の授業から定着していない様子が見える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学を操作的・機械的に扱っている生徒が多いため、具体物を扱いながら、意味理解を大切に授業構成を行う。 ・小テストを行ったり、授業で既習事項を意図的に扱ったりしながら、復習の機会を増やす。 ・週末課題として、家庭学習用のプリントを配布しているが、前向きに取り組む生徒と、そうでない生徒の二極化になっているため、難易度や分量等、見直しが必要がある。 ・理解に時間を要する生徒が多いため、TT等を活用して、きめ細かい指導を継続して行っていく。
	英語	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単語の並べ替えによる英作文、3文以上の英作文については、市区町村の正答率を上回っている。並べ替えによる英作文や自分の考えを書く英作文を定期的に課題として出している成果が表れている。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●さまざまな英文の読み取り、場面に応じて書く英作文は、市区町村の正答率を下回っている。初見の英文を読んで答える問題ができていないことがうかがえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書以外の英文を読み、概要を理解させる練習を取り入れる。 ・目的・場面・状況を設定した上で、英作文の課題を継続して出していく。他の生徒が書いた英作文を全体で共有し、次回以降の英作文の参考にさせる。
第2学年	国語	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」の領域については、推定全国値を13ポイント上回っている。ほぼ毎回の授業で話し合い活動や、自分の考えの発表に取り組んだ成果が表れていると考えられる。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●小学校で学習した漢字を正しく使うことに関する設問の正答率は、推定全国値を20.5ポイント下回っている。また、情報と情報との関係に関する設問では、推定全国値を21.5ポイント下回っている。知識・技能の領域に弱さが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用の割合が高く、手書きの機会が減っている。ドリル学習等によって漢字の知識を定着させ、さらに作文を手書きすることで漢字の活用力を身につけられるようにする。 ・文法について、分かったことや考えたことを生徒同士で説明しあい、知識の確かな定着を図る。
	数学	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○総合正答率が推定全国値と比較して同等であり、基礎的な知識や技能は習得できている傾向にある。 ○「思考・判断・表現」の正答率も推定全国値と同等であった。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題文や方程式を読み取り、正しい連立方程式をつくる問題の正答率が低いことから、日常的な場面における数量の間の関係を見抜き、数学の式で表すことができない生徒が多いことが分かった。 ・2つのグラフの傾きを読み取り、どちらの水槽の水が先に貯まるかを説明する問題の正答率が低いことから、記述式で考えたことを説明することに抵抗を持つ生徒が多いことが分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での説明する活動では、課題の難易度を落とし、誰もが結論や考えを持った上で、その判断の根拠や考え方の道筋を説明できるようにする。 ・引き続き週末課題や小テストを行い、レベル1、2に在る生徒が基礎的な知識・技能を習得できるように促していく。
	英語	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○場面に応じて書く英作文、3文以上の英作文は、市区町村の正答率を上回っている。自分やまわりのことを書く英作文を定期的に課題として出している成果が表れている。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●語形・語法の知識・理解、語彙の知識・理解が、市区町村の正答率を下回っており、文法事項が定着していないことがうかがえる。また、聞くこと・書くこと比べて、読むことで市区町村の正答率を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文法事項を定着させるため、練習問題をレベル別にして繰り返し練習する。 ・教科書以外の長文問題にも取り組ませ、初見の英文に慣れさせる。長文の概要を把握させ、答え方の練習を継続していく。

(2)意識調査の結果



＜傾向と今後の対策、分析＞

成果○：強み/伸ばしたい点 について
課題●：弱み/改善を要する点 について

【第1学年】

- 「自分にはよいところがある」「地域や社会をよくするために何かしてみたい」の数値が高いことから、地域全体で大切に育てられていることを、生徒たち自身も感じていると考えられる。
- 家庭学習習慣が十分には身に付いていない。

【第2学年】

- 多くの項目が市の平均を上回っていることから、自己肯定感や積極性が育っていると考えられる。
- 家庭学習習慣が十分には身に付いていない。

【R7学力調査受検者数】

第1学年	62	名
第2学年	48	名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示